

仕事休んで収入減／クビ心配で休めない

働くママの

苦悩切実

新型インフルエンザの感染防止のため、県内で公立学校や保育所の休校・休所措置などが行われて間もなく1年。当時、仕事を持った母親が子どもの預け先などで頭を悩ませていたことが、芦屋市のNPO法人「さんびす」のアンケートで改めて裏付けられた。「仕事を休んで収入が減り、生活が苦しくなった」「会社をクビになるのが心配で、休めなかった」など、切実な声が寄せられた。【小坂剛志】

新型インフル 対応

れない」など、生活やの迅速な連絡体制の整
仕事への不安を訴える 備などを求める声もあ
声が目立った。緊急時 った。

県内では昨年5月16日に神戸市で新型インフルエンザの国内初感染が確認され、保育所や幼稚園、小中学校や高校などで休校措置が相次いだ。同NPOの河口红理事長は「働いているお母さんが、子どもの預け先がなく、こんなに困っていた。同じ事態が起きた時、行政や地域でどうサポートできるかを考える必要がある」と話している。

芦屋のNPOアンケート

同NPOは母親の子

った(複数回答)。祖父母に子どもの面倒を見てもらったり、会社を休んだ保護者が多いことも分かった。

育て支援に取り組んで いる。アンケートは県 1330人から回答 があり、1週間の休校 措置で困ったことで 委託事業として昨年 9～11月、尼崎、芦屋 は、子どもの預け先8 両市と連携して、学童 71件▽仕事のやりか 保育や公立保育所に子 り747件▽家から出 ったが、母子家庭を中 どもを通わせている保 られない閉そく感48 心に「急な休校で仕事 護者2565人を対象 7件、などの回答があ やお金の都合がつけら



アンケートの結果をチェックする河口红理事長(右)ら。芦屋市の事務所

アンケートは昨年6月に西宮市が実施したものと合わせて、「NPOと行政の子育て支援会議(阪神南地域)ホームページ(http://hyogo-kosodate.jindo.com)で閲覧できる。